

I 世界におけるフランス語の諸相

- 第1章 フランス語圏の言語史——拡大と多様化 / 20
- 第2章 フランス語圏の地域言語——ヨーロッパの地域に根ざした諸言語のあり方 / 25
- 第3章 フランス語の普及政策——文明化の使命から言語多様性の保護へ / 29
- 【コラム1】 レバノンにおけるフランコフォニー / 34
- 第4章 ジェンダーをめぐるケベック・フランス語の言語政策——「人の呼称の女性形化」と「通性的な書き方」の推進 / 37
- 第5章 脱フランス中心の言語規範——モリエールのことばから「みんなのことば」へ / 42
- 【コラム2】 フランス領ポリネシアの多言語社会におけるフランス語 / 46
- 第6章 フランス語圏における若者ことば——言語接触の中でことばを創造する若者たち / 49
- 第7章 フランス語教育におけるグローバル化の流れ——多様なフランス語を反映させる試みと課題 / 54
- 【コラム3】 西アフリカの多言語社会とフランス語 / 59

II グローバル・ヒストリーの中のフランス語圏

- 第8章 近世フランスの世界戦略と植民地建設——領域経営と沿岸拠点 / 64
- 【コラム4】 フランス語圏と植民地 / 69
- 第9章 世界に散らばるフランス共和国——海外領土からみるフランス史 / 71
- 第10章 フランスが創ったサハラの世界史——支配と抵抗、オリエンタリズムそして未来への警鐘 / 76
- 第11章 植民地が育てた反植民地運動——マダガスカル知識人エリートとの闘い / 81
- 第12章 フランスの東方外交と学知——19世紀初めのアレップ総領事ルソー / 85
- 【コラム5】 19世紀前半のエジプト人知識人が見たパリ / 90
- 第13章 フランスにおけるクルド研究のはじまり——先駆者たちの横顔 / 92
- 第14章 「ラオス」をどう創るか——インドシナ諸国の独立 / 97
- 第15章 ベトナムをめぐる日本とフランス——「帝国主義的共犯関係」の確立 / 102
- 第16章 アルジェリアの脱植民地化と歴史認識——フランスへの引揚者の『記憶の戦争』をめぐる / 107
- 【コラム6】 フランツ・ファノン / 112

III グローバル経済とフランス語圏

- 第17章 フランス語圏内外の経済交流——貿易と投資 / 116

IV

フランス語圏をとりまく世界秩序の変革

- 【コラム7】 フランス語圏の経済空間を測る／121
- 第18章 フランス語圏企業のグローバル展開——大企業の3類型／125
- 第19章 開発援助と移民送金——フランス語のつながりか、歴史の遺産か／130
- 第20章 グローバルな不平等と貧困——長期推計にみるトレンド／134
- 第21章 移民経済からの困難な脱却——チュニジア南部の事例／139
- 第22章 グローバル化の中の社会的連帯経済の広がり——マグリブ3国での動向を中心に／144
- 第23章 水資源開発——北アフリカ・オアシス社会の変貌／149
- 第24章 グローバル化の中の食料安全保障と農業開発——北西アフリカ／154
- 【コラム8】 マダガスカルの豊富な資源と貧困／160
- 第25章 グローバル化する保全政策と地域文化の交差点——中央アフリカ・コンゴ盆地の事例から／162
- 第26章 緑のコロナリズム——現代の歴史／167
- 【コラム9】 地球の肺Ⅱガボンの熱帯雨林／171
- 第27章 宇宙開発とフランス語圏——先端技術と植民地支配のコントラスト／176
- 第28章 世界秩序の変動とフランス——ウクライナ危機への道程／180
- 【コラム10】 冷戦期の米ソ共存に抗うフランス／185

V

グローバル化とフランス語圏の政治

- 第29章 外交力の基盤としてのフランス語圏——フランスの「勢力圏」形成と撤退、中口の台頭／188
- 第30章 フランスとアフリカ——歴史的関係に動揺？／193
- 第31章 フランス語圏への国連マルチ外交——PKOを通じたフランスの国益追求／198
- 第32章 EUの戦略的自律——フランス発ベルギー着の進化型概念／203
- 第33章 航空分野におけるEUとフランス——EU共通航空政策の導入による変化を中心に／207
- 第34章 ナゴルノ・カラバフ問題をめぐるフランス政治外交——アルメニアとのつながり／212
- 第35章 「インド太平洋」の地理概念をめぐる国際政治——フランスは太平洋国家になりえるか／217
- 【コラム11】 ジブチを拠点とした自衛隊の海賊対処活動と国際協力／222
- 第36章 ポピュリズムに揺れるフランス政治——政党システムの再編へ／226
- 第37章 ベルギーの政治外交——境界線上の「欧州の首都」／230
- 第38章 「アラブの春」以後の東アラブ——フランス委任統治がシリアとレバノンに残した爪痕／234
- 第39章 新自由主義アルジェリアと民衆運動ヒラク——新自由主義政治の世界／238
- 第40章 フランスとルワンダ——「フランサフリック」の破綻／243
- 第41章 グローバル化の中の資源開発と政治的不安定——暴力の連鎖が拡大するサヘル／248
- 第42章 ニューカレドニア脱植民地化の戦い——先住民の権利と現代社会のはざま／252

VI グローバル化により変貌するフランス語圏社会

- 【コラム12】 2023年地震にみるモロッコの対外関係／255
- 第43章 奴隷貿易・奴隷制をめぐる記憶の場所——「トビラ法」が変えたフランスの史的風景／260
- 第44章 ケベックの政治と宗教——フランス的なライシテへの接近？／264
- 第45章 ケアのグローバル化とフランス——移住女性への家庭での外部化／269
- 第46章 ヨーロッパ・フランス語圏の生命倫理——ルクセンブルクでは誰もが安楽死できるのか／274
- 第47章 ベルギーにおける死刑廃止をめぐる——事実上の廃止から実際の廃止まで／279
- 第48章 フランス憲法への中絶権の編入——フランス法のソフトパワー／284
- 【コラム13】 フランスで敗れたフェメンの夢／288
- 第49章 フランス的著作権法観の伝播——人間としての著作者に向き合う法思想／291
- 第50章 人権とイスラーム——チュニジア刑法とLGBTの権利／295
- 第51章 変化する難民・移民受け入れの論理——ホスピタリティからプラグマティズムへ／299
- 【コラム14】 イスラモフォビアとフランス／304

VII グローバル化との相克におけるフランス語圏の文化

- 第52章 アフリカ中西部の民話——開かれた文学に出会う／308
- 第53章 フランス語圏カリブ海の女性作家たち——奴隷制を背景とした生と言葉の模索／312
- 第54章 ユダヤ人としてベルギーに生まれて映画作家になること——シャンタル・アケルマンについて／317
- 第55章 2024年パリ・オリンピックにおけるフランス語圏アフリカ——二重国籍選手の重要性／321
- 第56章 フランス歌謡界にみるグローバル化——アヤ・ナカムラのパリ五輪参加をめぐる論争／326
- 第57章 ヒップホップ／ラップ——持たざる者のフランス語／331
- 第58章 「新世界」との出会いとフランスの食の変化——七面鳥とトマトを例に／335
- 第59章 18世紀フランス美術の国際的波及——生きる歓びへの憧憬と文化政策／339
- 【コラム15】 アルジェリアの日本式マンガ創作とフランス語／344
- 第60章 西洋において忘れられる夜——地球規模課題に通ずる今日の問題／347
- 第61章 東南アジアから見た文化遺産保護——カンボジアとアンコール遺跡の考古学／352
- 【コラム16】 フランス語が拓いた私のアジア研究／357